

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2020年2月21日）

■第1版 第1刷（2014年06月01日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
目次					
7	目次中、第6章6	脊髄硬膜下記録	脊髄硬膜外記録		14/05/14
第6章 各種神経モニタリングの施行法					
162	下から3行目	中点(Cz)から前方1~2cm	中点(Cz)から後方1~2cm		19/09/27
163	上から3~4行目	患側刺激を <u>上肢刺激場所より正中側へ2cm</u>	患側刺激を <u>Cz から外耳道側へ5cmの位置から前方2cm</u>		19/09/27
163	図1		※1参照		19/09/27
180	タイトル	脊髄硬膜下記録	脊髄硬膜外記録		14/05/14
213	1) 刺激法の本文上から8行目	・患側部の陽極刺激	・患側部とは対側部の陽極刺激		16/04/28
第7章 脳外科手術での神経モニタリング					
269	図		●図の解説として以下の文を追加 <u>本図は、顔面神経頰骨枝の刺激により、口輪筋のAMRの消失を見た図である。図の左側に見える眼輪筋の反応は圧迫解除後も消失していないようにも見えるが、これは近接する頰骨枝刺激による筋電図が混入しているためである。眼輪筋のAMR消失は、顔面神経下顎枝を刺激して確認する(非掲載)。</u>	●追加テキストの解説 本図は、顔面神経頰骨枝を刺激して口輪筋のAMRの消失を見た図(圧迫解除成功例)であり、図の左側に見える眼輪筋の反応は、近接する頰骨枝刺激によって混入した筋電図です。 一方、眼輪筋のAMR消失は、顔面神経下顎枝を刺激して確認しますが、この場合は口輪筋に筋電図が混入して見えます(※本テキストには非掲載)。 つまり、片側顔面けいれんに対する微小血管減圧術におけるAMRの確認は、下顎枝刺激で眼輪筋のAMR消失を、頰骨枝刺激で口輪筋のAMR消失を確認することになります。	16/05/27
第10章 神経モニタリングに必要な統計学					
342	「6)パラメトリック検定とノンパラメトリック検定」の本文1~5行目	・パラメトリック検定:分布の形状(通常正規分布)に依存する統計量 ■平均、標準偏差を用いる統計法(ノンパラメトリック検定:分布の形状に依存しない(順位、中央値、パーセント値など)統計量で、順序尺度や名義尺度を扱う	・パラメトリック検定:分布の形状(通常正規分布)に依存する統計量(平均、標準偏差)を用いる統計法 ■ノンパラメトリック検定:分布の形状に依存しない(順位、中央値、パーセント値など)統計量で、順序尺度や名義尺度を扱う	カッコと改行の位置を修正	20/02/21

